

学校経営のポイント

人事異動の時期の“心構え”

若井 彌一

この「教職研修資料」が配信されるころ、全国的に公立学校の教職員人事異動が発表されるのが慣例となっている。

異動対象となっている教職員のうち退職者（辞職者を含む）は退職者として、また、転任者は転任者として、それぞれにこれまでの自分の歩んできた道をふり返り、また、これからの生き方を考えてみる好機である。

積極的役割を果たせたか

考えてみる好機といっても、異動の発表から転任する学校へ赴任する日までの日数は1週間程度しかないけれども、日帰りでもよいから温泉に入り、静かに思いをめぐらせる工夫をしてみてもどうか。

学校の教職員に限らないが、われわれ人間は多くの場合、一生の間に、さまざまな人々との出会いと別れを繰り返す。

一人ひとりの一生も、また人々によって構成される組織（学校の教職員組織もそのひとつ）の推移も、多様な人間関係がつくり出すドラマのようなものである。

ふり返ってみて、そのドラマのなかで積極的役割を果たせたとふり返ることができれば幸いである。その意欲はあっても、結果的には、そうでない消極的役割を果たすにとどまっていたと反省せざるを得ない人もいよう。その原因は何であったであろうか。

多様な人材で構成される学校組織の一員として、それぞれに期待される役割がある。その期待に応えることができれば、その組織体のなかで、その人は

十分に積極的役割を果たしたと言える。リーダー的役割を担ったり、演じたりすることだけが積極的役割を果たしたと言える必要条件ではない。

組織における自己の役割自覚を

ドラマは、主役だけでなく、脇役を担う人々の存在でおもしろさが増す。

驚異的な長期シリーズ（第1作～第49作）となった『男はつらいよ』では、主演の車寅次郎（渥美清）に加えて、名脇役を演ずる人々、さくら（倍賞千恵子）、おいちゃん・車竜造（森川信）、おばちゃん・車つね（三崎千恵子）、タコ社長（太宰久雄）、御前様（笠智衆）等がいた。毎回変わる、寅次郎が心を寄せる女性役（マドンナ）の存在もまた重要である。

育ちゆく子どもたち（幼児、児童・生徒）を主役ととらえれば、学校の教職員は、全員が脇役に位置することになるが、学校には教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われることが期待されている（教育基本法第6条第2項）。

その期待に応えるには、脇役を演ずる人々の縦横の連携・協力が欠かせない。新たな1年間の充実したドラマを実現させるために、脇役グループの一員として、自分が担うべき役割、担いうる役割は何かを静かに考え、実践への意欲を固め、新年度を迎えたい。

一人ひとりがこのような自覚をもって臨めば、各学校の経営と実践は、一段と充実したものになる可能性が大きい。

（わかい・やいち = 上越教育大学大学院教授・附属図書館長）

●近刊！●4月から実施される「指導改善研修」、免許更新制の導入等へ万全の対応を！ 教育開発研究所

『教員の養成・免許・採用・研修』若井彌一編著・A5判 370頁 予価 3400円

■好評発売中！

高階玲治【編】B5判 242頁・定価 2,520円

『ポイント解説 中教審「学習指導要領の改善」答申』

『やさしい教育法規の読み方』新訂4版 菱村幸彦【著】B6判 400頁 定価 3,150円